

JR肥薩線復興アクションプラン 第1期中期計画

JR肥薩線復興アクションプラン推進会議
日常利用施策・基盤整備推進部会

◆2033年度（復旧時点）で目指す姿

- 肥薩線とくま川鉄道が直通運転化することで、肥薩線沿線からくま川鉄道沿線や、くま川鉄道沿線から八代方面への通勤・通学、外出、業務等利用の利便性が向上している
- 肥薩線を新八代駅まで直通運転化することで、肥薩線の新幹線アクセス線としての機能を拡張し、鉄道利用による人吉・球磨地域から熊本・博多・鹿児島・関西方面の利用が増加している
- 遠方から人吉・球磨地域へのアクセス性を向上させることで、入込客数が増加している



◆2026年度（中期計画終了年度）で目指す姿

- 直通運転ダイヤの検討の前段として、被災前の肥薩線利用実態・くま川鉄道の利用実態が整理されている
- 住民アンケートや観光客アンケートを通じて、直通運転のニーズについて再整理されている



◆各年度の実施事項

実施項目	実施主体	2025年度	2026年度
各市町村における利用ニーズ等の取りまとめ	☆市町村、県	・ 各駅における被災前の利用状況調査	・ 住民アンケートや観光客アンケート等による利用ニーズ調査
豊肥本線を参考に実施事項を整理	☆県、市町村	・ 豊肥本線の事例調査	・ 豊肥本線の事例調査に基づく実施事項の整理
直通運転のダイヤ検討にあたっての地域住民・観光客の利用ニーズ整理	☆市町村、県		・ 住民アンケートや観光客アンケート等による利用ニーズ調査

12 生活・交流拠点としての駅再整備

◆2033年度（復旧時点）で目指す姿

- 坂本駅は、駅周辺で整備が進む行政・商業・医療施設、災害公営住宅等の生活・交流施設へ、駅から徒歩で移動できる環境を整え、駅と一体となったまちづくりが進んでいる
- 渡駅は、球磨村復興計画や利用ニーズに沿って、駅再整備を検討する。その他の駅も、復旧工事にあたり最適な駅立地の検討がなされている
- このほか、人吉駅等の一部駅の駅舎内や駅近くで、学習スペースや保育施設等の生活拠点や、カフェ等の交流拠点の整備がなされている



◆2026年度（中期計画終了年度）で目指す姿

- 新たに整備する施設（八代市、球磨村）の具体的な立地、規模、機能について、仕様の検討に着手している
- 費用の概算見積や施設の仕様を踏まえて、運営の具体的な官民連携手法について、協議が進んでいる
- 初期投資負担の軽減に向けた整理ができている
- 各駅舎の権利関係について、JR九州と所有権の移転やその時期などの事項について整理されている



◆各年度の実施事項

実施項目	実施主体	2025年度	2026年度
各市町村における駅周辺整備	各市町村	・ 各市町村における駅周辺整備	・ 各市町村における駅周辺整備
駅および駅周辺整備の項目整理、概算見積	☆市町村、県、JR	・ 整備項目（規模、機能）の整理	・ 概算見積の徴取
事業スキームおよび費用の詳細化	☆県、市町村、JR	・ 事業スキームの詳細化	・ 同上 ・ 費用負担スキームの検討
駅立地の検討	☆県、市町村、JR	・ 駅立地の検討	・ 整備する駅の権利関係の整理

13 通勤・通学時間帯の増発

◆2033年度（復旧時点）で目指す姿

- 朝・夕時間帯で増発し、球磨村エリアや人吉市西部在住の住民を中心に肥薩線での通勤・通学利便性が向上している
- テスト期間に臨時ダイヤ設定を行うなど、柔軟な鉄道移動が提供されている



◆2026年度（中期計画終了年度）で目指す姿

- 地元住民の通勤・通学実態を調査し、状況が把握できている
- 今後実施予定の実証実験にかかる実証ダイヤが整理されている



◆各年度の実施事項

実施項目	実施主体	2025年度	2026年度
通勤・通学における移動ニーズの調査・整理	☆市町村、県	・ 被災前の通勤・通学利用実態の調査	・ 地元住民の移動ニーズ整理
実証ダイヤの検討	☆県、市町村、JR	・ 実証ダイヤの検討	・ 実証ダイヤの検討